

## 鶴岡市総合計画審議会 第2回厚生専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年5月18日(金) 午後2時から
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター にこふる 大会議室
- 委員発言の概要

### 挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備

- ・これから老老介護の時代に向かっていく中で、施設の充実ということを考え、介護休暇の普及を目指して欲しい。
- ・介護者のメンタルヘルスケア、老老介護、介護者の高齢化のなかで、サービス情報などが入りにくい状況になっているのではないかと。情報が介護者に上手く伝わっていくようにできればいい。
- ・項目として、環境の整備については文化面に着眼点を置かず、自然とか歴史に広げていった方がよい。
- ・環境について、学校教育等ではかなり取り組んでいるようだが、学校の児童生徒以外はどうなのか。そういう面では、価値のある人はいるかと思うが、全体的に見ると若干低いように思う。そんなことからもっと住人の関心を高めていかなければいけないと思う。結局は環境の整備に納得して良い方向に行くのではないかと。
- ・少子化対策として若い園長先生と話した中で都会では貧困家庭が多いと聞いている。鶴岡市には空き家が多いので、そこを利用して受け入れることはできないのか。鶴岡は都会と比べて物価も安く住みやすいという職場での意見があった。
- ・お互いに助け合って、力を合わせながら、男女共同参画社会を活発にして、女性の方の積極的な参画によって、人をひきつけて環境の整備をした方がいいのではないかと。
- ・何か新しいことに挑戦するには、今現在、これまでの過程を知ることが必要である。自分自身を振り返っても孫達に鶴岡の歴史を説明できるか疑問がある。それを学校にお願いするのは無責任かもしれないが、是非、学校等で鶴岡の素晴らしさを子供たちに教える。それに対し活動できるカリキュラムがあったらいいのではないかと。
- ・鶴岡は、最低賃金が低い。良い仕事をする、良い地域をつかっていくにはそこに住む生活者を大切にしていく必要がある。そのためにも、基本となる給与の見直しが必要になる。
- ・何か困ったときに相談できる所が、今いろいろ求められている。病院に限らず、市役所や各地域庁舎でも窓口に来た人にきちんと説明・相談できる環境を強化してほしい。そのための人材育成もしてほしい。
- ・専門職が挑戦できる医療、介護、保育施設を展開すればいいのではないかと。そこで働きたいと思える病院、施設があればいい。

- ・とがった施設があれば、そこに「視察」が来ると思うし、交流人口の拡大にもつながる。とがった特徴をもつヘルスケアの拠点をつくるといったイメージだ。
- ・挑戦できる人をひきつけるようなとがった事業を行えばいいのではないか。
- ・ヘルスケアからまちづくりまで、ごちゃまぜのイメージである。
- ・子供の医療費を無料にするなど市が子どもにお金をかけることは、将来的にはその子供たちが全国各地に観光大使として羽ばたき、投資にも繋がるのではないか。
- ・先端研などあのような元気なところの全体像をもっと市民に詳しく青写真を説明すべきではないか。公開すれば、今の若いひと達が夢と希望を持てる気がする。
- ・鶴岡を訪れる観光客が増えている。誰でもわかるような観光資料とか、そういうものを取り付けるといった配慮が必要。これに限らず、市では色々な形で周知していると思うが、周知の仕方が良くない。改善されればありがたいと思う。

### 人づくりによる人材の確保

- ・介護士・保育士・医師等の人材不足ということで、これらの人材を確保するために、地元でこれらの職に就くことを条件として、奨学金免除制度の導入などを取り入れている県があると聞いたので、そういったことに少し興味を持った。
- ・人材の確保ができればいいのだが、最近では確保することが中々困難である。
- ・人によっては、様々な役職を兼務しているが1つや2つではなく、3つ4つとどんどん増えていく。これでは、本人もそうだがこれから大変な時代を迎えていく。
- ・人材（役員等）の負担軽減の見直しを行っていかなければならない。具体的にどういう手だてがあるのかわからないが、それを乗り越えなければ難しいのではないか。
- ・人材確保の課題としては、保育士の質と向上。処遇改善は、国でも進めているが、まだまだだと思う。
- ・子どもがなりたい職業のナンバー3に保育士がなっているものの、このままでは現実には厳しいと思う。
- ・先日、職場体験に来た中学生たちに「保育園のこと覚えていますか」と聞いたら、少ししか覚えていないということで、その当時というか保育園にいた時に保育士が手厚く接していれば、なりたい職業になっていたと思うが、大きくなるにつれてそれが多分変わってくると思う。
- ・保育園に勤務する従事者の保育士資格取得の支援拡充について、現在も支援を頂いている訳だが、それ以上の拡充と対象になる職員の拡大をお願いしたい。
- ・元気高齢者、核家族など、共働き、放課後に児童に手や目が行き届かない家庭が多いと思う。元気高齢者たちと一緒に憩える場所を提供してやることで、子どもたちに文化的な習い事を教えてやることもできるのではないか。
- ・そういったことをしていれば地域に育てられた恩で故郷を大切に思うのではないか。
- ・これからの10年を見据え、現状は、核家族化の進展、生活環境の変化、世代間の価値観

値感の相違の拡大など、家族の絆が弱まっている。また、地域では人と人のつながりが薄くなって意識が低下している。

- ・地域福祉活動の担い手を確保して育成すること。高齢者が元気で医者にかからないような生きがいつくり、健康づくりとともに、学生・生徒など若い世代が地域公益活動に参加してもらいたい。

- ・こころのもち方が大切だ。こころの健康づくりに向けた関係機関のネットワーク化により、心を育てるということをしていただきたい。

- ・全市的に保健・医療・福祉・介護・保育等における専門職の「実習」の積極的な受入強化をすればいいのではないか。

- ・全国の専門学校や大学に鶴岡の施設での実習を促す宣伝、営業をかける。

- ・市をあげて各種専門職の実習受け入れを行う。仮に全国から来るのであれば、旅費、宿泊費、滞在費等を支援できればなお良い。人づくり、人材確保にも繋がるし、交流人口の拡大にも関わる。実習がきっかけで鶴岡に就職ということも期待できる。

- ・現状、「実習」はそれぞれの事業所、機関に委ねられており、実習を断っているところもある。後継者の育成にも繋がるのに本当にそれでいいのかと思う。

#### 交流人口を増やす施策の実施

- ・少子化対策、社会全体の取組みとして、市民的な理解と触れ合いを持って家庭を支援して行ってほしい。

- ・出会いの場となるようなイベントを拡大していただき、婚活さえしない人向けだったり、交流を広げるきっかけを作ってほしい。

- ・若い層を引っ張り込めるようなイベント、楽しめるようなイベントで出会いの場となるようにしていただければありがたい。

- ・あらゆる年代の方々が活動に参画しやすい仕組みをつくり、それぞれの地域課題に活用できる社会資源を横断的に有効活用していただきたい。

- ・CCRCによる中高年の移住も考えられるのではないか。

- ・鳥取県は移住者が非常に多い、なぜ移住者が多いかというと、ここに来ると安心して子供を育てられるという支援が非常に充実している。是非、鳥取県に行って見てきたらどうか。

#### 若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築

- ・不妊治療のイメージを市民全体で変えていくという視点に目を向けてみた。まだまだ閉ざされた中で不妊治療をしていく人達の気持ちに少しずつ寄り添っていきたい、そういった雰囲気まち全体で作ってあげたいと感じる。

- ・お母さん自身が病気になった時に、どうしても簡単に子供を預けられず、医療機関を受診すること、健診に行くことが難しいといったことを聞くことが多い。市全体でそう

いったところにも応援、環境を整備いただけたら子育てしやすいまちに繋がっていくのではないかと。

- ・保育サービスの充実、保育園の充実、子育て家族の相談支援の充実、というところでは現在も手厚くしているとは思いますが、今の保護者の方たちの要望に応える仕組みづくりがあればよろしいかと思う。

- ・現状は、人口減少や少子高齢化、過疎化、孤立化が進行している。社会においては身近な地域での支え合いの仕組みづくりが大切。子どもの育ちや子育ての支援もしかり。

- ・社会活動においては、差別や偏見のない心のバリアフリーを幼児教育からしていただくことを願う。お年寄りの介護予防への支援、環境づくりをしてほしい。

- ・最近さまざまな情報を周知する場面で、SNSとかホームページをご覧くださいという言葉が非常に多く取り入れられている気がする。高齢者は、SNSとかホームページとか言われてもわからない、もう少し高齢者にふさわしいような配慮をしてはどうか。

- ・特定不妊治療については、職場の中にも不妊治療している方が何名かいる。そして、独身者もいる。子どもができない職員もいる。里親制度を利用した職員もいる。やはり、保険適用にならないものかと、そして職場の協力が不可欠だと思う。

#### 内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承

- ・健康寿命を延ばしてゆくことに力を入れていく。

- ・鶴岡は冬期間が長く、外で活動するのが難しいというイメージをもたれているが、簡単に運動できるような気軽さを、もう少しイメージ付けられればいいのではないかと。

- ・伝統文化の担い手を育成し、鶴岡市の文化資源について、市民自らが文化を理解し、後世に継承できるような活動の支援をしていただきたい。

- ・市民全体、市民主体の芸術活動を促進していただきたい。

- ・医療、介護、保育従事者のワークライフバランスを支援することが必須と考える。鶴岡の病院等で働くこんな良いことがあるということを見せていくイメージだ。

- ・子供たちに地元の歴史や文化を伝える、郊外学習や地元の公民館などでそのような講座を開設してはどうか。

- ・子供たちに郷土愛を伝えたり、地元の歴史や文化を知ってもらうため、例えば、致道博物館の入場料を小中学生無料としてはどうか。

- ・観光施設等で鶴岡市の小・中学生は無料とすれば、観光客は市民が大切にされているまちなんだと感じると思う。

#### 「循環」をキーワードとして重視

- ・廃棄物対策について申し上げたい。不法投棄あるいは不正処理の問題について新聞等で報道されているが、市内についても報道されたことがあるが、そういった問題について、私どもは環境にやさしいスタイルということで可能な範囲で畑などに埋め立てるな

ど、可能な範囲で処理したほうがいいのではないかと。

- ・私ども個人的、あるいは社会的な努力を重ねていかないとこの問題は解決に至らないと思う。

- ・行政でも再資源化、再利用の推進をしている訳だが、それはそれとして進んでいるようなので心配はないと思う。

- ・自然に返すというような、いわゆる循環型の社会というのをやっていたからそんなに問題にならなかった。

- ・温室効果ガスの削減に向けた取組として、地球温暖化対策への意識の向上を図ること。子育てがしやすい地球環境の整備を考えていただきたい。

- ・専門職の「実習」をキーワード、接点として、教育と現場の後継者育成の循環をつくる。実習受入態勢の強化というようなキーワードはどうか。

- ・高齢者や働きたいけど働けないという主婦層の方々の活躍の機会創出で、地域の経済生産性が高まるのではないかと。

#### 対応から本格的国際都市への移行

- ・人口減少や高齢化がこれから急速に進む。医療・介護など切れ目のないサービスが将来にわたり求められてくる。それ故に高度医療、地域内医療、介護などの関係団体が情報を共有し、患者サービスの向上を図っていただきたい。

- ・先端研によるヘルスケア関連の国際会議の拡充。ヘルスケア分野でとがった活動を行う中で、宿泊施設の問題、アテンド、市民の語学力を全市的に高めていくというイメージだ。

#### コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現

- ・仕事と子育ての両立支援、子育てしながらの就職活動の難しさをよく聞く。

- ・就職面接する際に子どもの預け先がない、スーツがないとの声もある。そういったことに対して支援があるとお母さんたちも就職活動に出向きやすくなるのではないかと。

- ・仕事が決まらないと、どうしても保育園の優先順位が後回しになるため、なかなか復職しにくいという状況がある。

- ・仕事と子育ての両立支援、ワークライフバランスは生活の充実において仕事はかどりに上手いく。仕事が上手いけば私生活も潤うというところで、今の企業の考え方は職場優先ではないか。この職場優先の考え方を変えなければ、両立は困難ではないか。例えば、がん治療のながらワーカー支援もしているが、そのようなことや不妊治療、休みがとりづらく断念する人も多い。子どもの看護、育休、産休に対する配慮が充実している訳ではない。

- ・鶴岡市の遺産である食・文化・健康の3要素における観光資源を活用して、市域を超えた広域観光の強化を図っていったらよいのではないかと。

・朝日地域でやっているような小さな拠点が必要ではないか。中山間地域に限らず、地域運営組織の法人化する。高齢者が農産物の加工をして「みちの駅」で売るといったような事業型地域運営組織のようなイメージだ。

#### オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

・とがった、全国に模範となる、例がないような医療、介護事業所をつくることができればいいのではないか。

#### その他、新たな項目の追加

- ・「若者が戻ってきたいくなる地域づくり」という視点があってもいいのではないか。
- ・「市民所得の維持・向上」、経済の域内循環を高めるような施策の方向も考えられるのではないか。
- ・総合計画がもう少し市民寄りになることが必要ではないか。
- ・市民の意識が総合計画の主体者、実施者となるようにすべきではないか。新たな項目として、「市民一人ひとりの未来に対する主体的意識の醸成」ということが考えられる。
- ・総合計画を他人ごとにせず、自分ごととしてとらえ、鶴岡のこれから、自分のこれからを主体的に考えることのできる市民の育成が必要である。
- ・市がやってくれるんだということではなく、あなたがやるんです。私がやるんですという意識に市民がならないといけない。
- ・障害者スポーツについての記述があれば良いのかと思う。パラリンピックもあるし、障害者スポーツ施設を充実したら良い。例えば、小真木の運動施設の無料化、いつでもスポーツができるような体制の整備が必要ではないかと思う。
- ・過疎地、交通弱者等の視点から移動式診療所とか移動スーパー等も考えてはどうか。